

平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人東京農工大学

1 全体評価

東京農工大学は、農学、工学及びその融合領域における自由な発想に基づく教育研究を通して、課題解決とその実現を担う人材の育成と知の創造に邁進することを基本理念としている。第3期中期目標期間においては「世界が認知する研究大学へ」を学長ビジョンとして掲げ、①世界と競える先端研究力の強化、②国際社会との対話力を持った教育研究の推進、③日本の産業界を国際社会に向けて牽引、④高度なイノベーションリーダーの養成、に積極的に取り組み、卓越した成果を創出している海外大学と伍して、全学的に卓越した教育研究、社会実装を推進することを目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、科学技術のイノベーション創出の活性化を目的に「博士ビジョナリープロモーション」を展開し、イノベーション手法やマインドを醸成する講義を行うとともに、戦略的な人材育成を行うため、従来の事務職員の職制に加え、高度な専門的知識・スキルに基づいた専門職ポストを置く複線型のキャリアコースを設定するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成29年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- グローバルイノベーション研究院において外国人研究者51名（対前年度比10名増）を招へいし、所属教員との戦略的研究チームを組織して国際共同研究を推進するとともに、戦略的研究チームの効果を検証し、チーム再編や前年度実績のフィードバック等を実施した結果、平成29年度における国際共著論文数は86報（対前年度比16報増）となっている。（ユニット「国際社会で活躍できる理系グローバルイノベーション人材を養成する世界水準の教育研究を推進する取組」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化		○				
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでおり一定の注目事項がある

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、一定以上の注目すべき点があること等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 教員のモチベーション向上及び研究活動活性化に資する人事制度の改定

年俸制を適用する教員のモチベーション向上及び研究活動の活性化のため、従来は該当する教授及び准教授をそれぞれ「エクゼクティブ・プロフェッサー」「エクゼクティブ・アソシエイト・プロフェッサー」として認定していたが、規定改定により「ディスティングイッシュト・プロフェッサー（卓越教授）」に一本化するとともに、「卓越教授」と対外的に称することを可能とし、新たに准教授2名を「卓越教授」として認定している。

○ 事務職員の戦略的人材育成を目的とした複線型キャリアコースの設定

キャリアパスの明確化による事務職員のモチベーションの向上及び適正な人員配置による組織の活性化並びに戦略的な人材育成等を目的として、従来の職制に加え、高度な専門的知識・スキルに基づいた専門職ポストを置く複線型のキャリアコースを設定し、どちらかを事務職員本人が選択するものとする方針を「事務職員のキャリアパスに関するガイドライン」として取りまとめている。

○ 多様な人材の確保・育成に向けた取組

多様な人材の確保に向け、新たに17名の外国人教員を採用（教員採用数の約50%）するとともに、女性教員が活躍できる環境整備として病児・病後児保育に対する支援に関する規定整備を行ったほか、女性幹部職員養成のための施策として、女性職員のキャリアプランについてのヒアリングを事務職員・技術職員の人事評価に係る面談において実施している。

（2）財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（3）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（4）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等 ④情報システムの整備充実と運用改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ イノベーションを創出する人材の育成に関する取組

日本における科学技術のイノベーション創出の活性化を目的に、大学独自予算による「博士ビジョナリープロモーション」を展開し、イノベーションに関する手法やマインドを醸成する講義を行うとともに、科学技術をベースとした社会の課題解決提案のためのビジネスプラン発表会を開催し、優れたチームとして選考された学生に世界的なイノベーション機関であるSRIインターナショナル（米国）での研修機会を与えている。

○ 学生の多様なキャリア形成支援策の実施

同窓会及び生協と連携した合同企業説明会を開催したほか、大学院博士課程進学への動機付けにつながる施策の一環として、企業等との連携の下、企業人事及び博士OB・OGによる講演会・相談会である「博士人材キャリアイベント」を開催し、イベント実施前後にアンケートを行ったところ、大学院博士課程進学を決定もしくは考えているとの回答の割合が、48%から73%に上昇している。

○ 大学が有する研究シーズのマッチングに関する取組

過去の共同研究、受託研究、科研費補助金についての教員別データを分析するとともに、企業訪問により把握した企業の課題を踏まえ、大学発ベンチャーと複数の教員のシーズを組み合わせて、企業側と研究者等とのコーディネートを実施した結果、3件が共同研究契約の締結に繋がっている。